



## 環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

### 〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 紫外光照射（U V - B）による病害虫防	化学農薬の使用回数の削減 農薬暴露の影響軽減 作業時間の削減
		▶	

### 〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	<b>6</b>	▶ <b>4</b>	殺虫剤 3 → 2 回、殺菌剤 3 → 2 回に削減
			▶	
			▶	
			▶	

\* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

\* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

### グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

関係機関が一体となり、情報提供及び技術指導を行うことで、技術の周知及び推進を図る。

### 関係者の役割

関係者名	JAあさか野いちご部会	埼玉県さいたま農林振興センター	JAあさか野	
役割	技術導入、検討	情報提供・技術指導	情報提供・技術指導	